

# 市全域の状況（平成30年3月末現在）

参考資料①

## 1 集いの場

	①いきいき百歳体操 （か所）	②子育てサークル・ 子育て支援サークル （登録団体数）	③地域子育て支援センター （か所）	④子育てサロン （か所）	⑤子どもの居場所・ 子ども食堂 （か所）	⑥サロン（か所）	⑦認知症カフェ （か所）	⑧地域交流 デイサービス 【ミニデイ】 （か所）	⑨宅老所（か所）	⑩その他 ：いきいき百歳 大交流会
	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度開催数
	高齢者支援課把握数	子ども育成課登録数	子ども育成課設置数	市社協把握数	市社協把握数	市社協把握数	高齢者支援課把握数	高齢者支援課把握数 【補助事業】	高齢者支援課把握数	
H25	306	28	10	8	-	36	2	45	22	1
H26	319	24	10	8	-	43	3	45	22	1
H27	331	24	10	9	3	51	8	45	22	1
H28	346	17	10	11	13	56	19	43	22	1
H29	360	21	12	19	24	63	23	39	22	1

- ① **いきいき百歳体操**：いきいき百歳体操は、米国国立老化研究所が推奨する運動プログラムを参考に、平成14年に高知市が開発した重りを使った筋力運動の体操であり、住民主体の介護予防活動として市内へ広がっている。
- ② **子育てサークル・子育て支援サークル**：子育て中の保護者または、子育て中の親子を支援する方が、親子同士の交流や子育て中の家庭への様々な支援活動を、ふれあいセンター等の建物を活用して、開催している。
- ③ **地域子育て支援センター**：地域の身近な場所で、子育ての支援を担う施設で、乳幼児のいる子育て中の保護者を対象として、親子の交流の場の提供や育児相談、子育てに関する情報提供等を行っている。各センターがそれぞれ特色のある取り組みを進めている。
- ④ **子育てサロン**：地区民児協や地区社協などが中心となり、子育て中の方同士の交流と仲間づくりの場としてふれあいセンター等の建物を活用し、開催している。
- ⑤ **子どもの居場所・子ども食堂**：子ども食堂は、子どもが一人でも気軽にご飯を食べに行ける場所として、無償または低額で食事を提供している。子どもに限らず、食を通じた地域の集いの場になっている。
- ⑥ **サロン**：身近な地域でご近所さんが集まり、お茶や食事をしたり、話をしたりして、交流する場。
- ⑦ **認知症カフェ**：認知症の方が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らしていける環境づくりの取り組みとして、専門職や地域住民が協働し、認知症の方や介護者が参加し、相談や交流ができる場
- ⑧ **地域交流デイサービス（ミニデイ）**：高齢者が地域で交流することで、閉じこもりを防ぎ、お互いに助け合うことにより、住み慣れた家庭や地域で豊かな生活が送れる高齢者自身の手による支援ネットワークづくりを促進することを目的とした制度。
- ⑨ **宅老所**：民家や老人福祉センター等を活用し、利用される方々がなごやかに思い思いの一日を過ごす通所事業。介護保険の通所サービスとは異なり、少人数で家庭的な雰囲気の中で和気あいあいとした時間を過ごすことができる。
- ⑩ **いきいき百歳大交流会**：いきいき百歳体操のお世話役やサポーター、体操参加者が一堂に会す、交流会。主催は、いきいき百歳大交流会実行委員会。

## 2 見守り

	①あんしんキット (年度毎の配布数)	②福祉委員	③気くばりさん	④避難行動要支援者対策	⑤自主防災組織
	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度3月末時点	各年度4月1日時点
	市社協把握数(※が新規配布地区)	市社協委嘱数	市社協登録数	地域防災推進課実施数	地域防災推進課把握数
H25	9地区 5,400本 (詳細) 五台山20本 三里20本 下知18本 大津621本 鴨田2,000本 初月1,000本 朝倉121本 春野1,000本 秦600本	-	-	-	602団体 73.3%
H26	13地区 4,254本 (詳細) ※布師田300本 五台山520本 三里300本 下知220本 ※北街180本 初月190本 朝倉100本 ※旭280本 ※長浜500本 ※一宮445本 ※江ノ口344本 ※江ノ口東530本 ※高知街345本	5地区 67名 (詳細) 江ノ口東16名 鴨田27名 北街5名 旭3名 鏡16名	市内100名 (市外含む総数132名)	2地区 (名簿提供まで済み)	665団体 87.0%
H27	6地区 1,891本 (詳細) 五台山150本 朝倉140本 旭850本 ※浦戸280本 一宮370本 江ノ口101本	7地区 93名 (詳細) 北街6名 旭8名 鴨田32名 初月5名 鏡17名 長浜4名 江ノ口東21名	市内254名 (市外含む総数301名)	5地区 (名簿提供まで済み)	704団体 88.3%
H28	5地区1,150本 (詳細) 朝倉293本 旭317本 江ノ口30本 ※潮江500本 ※小高坂10本	7地区101名 (詳細) 北街6名 旭8名 鴨田35名 初月5名 鏡18名 長浜4名 江ノ口東25名	市内333名 (市外含む総数387名)	8地区 (名簿提供まで済)	734団体 89.1%
H29	7地区1,966本 (詳細) 旭200本 江ノ口東20本 朝倉44本 ※初月200本 ※介良472本 潮江1,000本 一宮30本	12地区156名 (詳細) 旭12名 江ノ口東27名 北街7名 鴨田42名 長浜4名 初月8名 鏡17名 布師田17名 大津5名 朝倉4名 一宮12名 高知街1名	市内520名 (市外含む総数584名)	8地区 (名簿提供まで済)	771団体 92.3%

- ① **あんしんキット**：救急医療情報キット 緊急時の備えとして、緊急連絡先やかかりつけ医、服薬内容等の情報をキットの中に入れて冷蔵庫の中に保管することにより、救急時に駆けつけた救急隊等が、冷蔵庫の中の救急医療情報キットを取り出し、情報を入手することで、迅速な対応に繋げるもの。
- ② **福祉委員**：地域で福祉活動をされている人で地区社会福祉協議会から推薦をされ、市社協から委嘱をされた人。
- ③ **気くばりさん**：できる人ができるときにできることをするボランティアで市社協ボランティアセンターへ登録をした人。
- ④ **避難行動要支援者対策**：H26.4に改正災害対策基本法が施行されたことに伴い、H26.12より高齢者や障害者などの方々を災害時に支援するため、避難行動要支援者名簿を活用し、災害時の避難等の際に可能な限り地域で支援を受けられるよう、平常時の見守りと災害時の安否確認などの支援を行う際に活用されるもの。
- ⑤ **自主防災組織**：自主防災組織とは、地域において住民が協力・連携して自主防災活動を行うために、学校区や町内会活動区域などを単位として、その地域住民で結成する組織。

### 3 話し合いの場

	⑯地域支え合い会議	⑰地域内連携協議会 (小学校区)	⑱学校支援地域本部事業	⑲地域ケア会議	⑳地区社連情報交換会
	各年度実施回数	各年度3月末時点	各年度実施校	高齢者支援課実施数	市社協把握数
	市社協把握数	地域コミュニティ推進課 登録数	教育推進課実施数	高齢者支援課実施数	市社協把握数
H25	1地区(小高坂) 3回	3地域 布師田/土佐山/浦戸	-	-	-
H26	1地区(小高坂) 1回	4地域 ※新規1地域 昭和知地区	-	-	4回
H27	1地区(小高坂) 4回	12地域 ※新規8地域 小高坂/横浜/朝倉/朝 倉第二/久重/初月/三 里/十津	-	8回 H27.12より地域高齢者 支援センター毎に概ね 2ヶ月に1回開催	4回
H28	1地区(小高坂) 6回	19地域 ※新規7地域 第六/五台山/鏡/横浜 新町/長浜/秦/潮江南	5校 うち小学校3校 五台山/春野東/秦 うち中学校2校 西部/一宮	25回	4回
H29	2地区 (小高坂5回 秦2回)	20地域 ※新規1地域 一ツ橋	11校 うち小学校9校 ※新規6校 江陽/旭/布師田/一ツ橋 /十津/横内 うち中学校2校	52回	2回

⑯ 地域支え合い会議：地域の福祉課題について、様々な各種団体や関係機関が集まり、考える場。

⑰ 地域内連携協議会：地域内での各種団体や組織の連携・協力によって解決を目指していくための仕組み。おおむね小学校区をエリアとしている。

⑱ 学校支援地域本部事業：高知県教育委員会が所管し、平成28年度から5校のモデル校で実施される。学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民等の参画による地域の実情に応じた取り組みを有機的に組み合わせて、授業等における学習補助や教員の業務補助などの学校支援等、様々な教育支援活動を行うもの。

⑲ 地域ケア会議：高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。地域高齢者支援センター毎に開催し、多職種の協働による個別ケース（困難事例等）の支援を通じた、地域支援ネットワークの構築や高齢者の自立支援に資するケアマネジメント支援、地域課題の把握などを行うもの。

⑳ 地区社連情報交換会：地区社協間相互の情報交換と連携強化を目的として行う情報交換会。

#### 4 学び

	①ふれあい体験学習 (年度毎の受講者)	②ほおっちょけん学習	③ほおっちょけんグッズ	④NEWSほおっちょけん	⑤高校生の 福祉体験学習 (年度毎の受講者数)	⑥その他
	各年度実施回数 ・参加者数	各年度実施回数	各年度配布数	各年度配布数	各年度実施回数	
	障がい福祉課把握数 【委託事業】	市社協実施数	市社協実施数	市社協実施数	市社協実施数	市社協把握数
H25	小学校35校3,408名 中学校2校204名 高校2校450名 一般2か所43名 合計4,105名	-	-	-	高校生ワークキャンプ 参加者18名(4校)	-
H26	小学校35校3,900名 中学校1校122名 高校2校464名 一般3か所44名 合計4,530名	-	ほおっちょけんバッジ 3,432個	創刊～4号 2,180部	高校生ワークキャンプ 参加者12名(6校)	-
H27	小学校32校3,943名 中学校1校103名 高校3校521名 特別支援学級1校18名 一般2か所25名 合計4,610名	小学校3校276名 (+保護者30名)	ほおっちょけんバッジ 1,830個 ほおっちょけんストラップ 2,671個	5～16号 16,000部	ほおっちょけんのススメ 参加者11名(4校)	◆福祉教育連携授業 春野高校
H28	小学校37校4,058名 中学校2校306名 高校4校626名 一般2か所66名	幼稚園1園35名 保育園1園33名 小学校3校268名 こどもの居場所1か所8名	ほおっちょけんバッジ 853個 ほおっちょけんストラップ 5,281個	17～28号 7,150部	ほおっちょけんのススメ 参加者5名(4校)	◆福祉教育連携授業 春野高校
H29	小学校31校3,442名 中学校4校638名 高校3校536名 一般23名 合計4,639名	保育園3園88名 小学校6校353名	ほおっちょけんバッジ 905個 (H26～累計7,020個) ほおっちょけんストラップ 5,145個 (H27～累計13,097 個)	29～40号 8,227部 (累計33,557部)	ほおっちょけんのススメ 参加者3名(1校)	◆認知症サポーター 初月小学校 潮江中学校 行川学園 ◆福祉教育連携授業 春野高校 北高校

① ふれあい体験学習：高知市から障害者福祉センターに委託されている事業であり、車いす体験やアイマスク体験等の福祉体験学習を行うもの。

② ほおっちょけん学習：「ほおっちょけん」をキーワードにした子どもたちを対象に行う福祉教育。

③ ほおっちょけんグッズ：心の中にある「ほおっちょけん」を合言葉に、とってよく利くハナとアンテナで小さな困りごとを発見するキャラクター。高知大学教育学部芸術コースの学生さんがデザイン。

④ NEWSほおっちょけん：地域福祉活動を広く市民に知っていただくことを目的に、市社協と地区社連が発行。概ね2カ月に1回、2号ずつ発行している。

⑤ 福祉体験学習：H25～26年ワークキャンプで2泊3日の合宿研修。H27～「ほおっちょけんのススメ」高校生が身近な地域にある高齢者や障害者の施設のボランティアを行う体験学習。

⑥ その他：その他の福祉教育。認知症サポーター養成講座(健康増進課主催)や高校生の年間の福祉教育を連携して実施。

